

第3回専門部会のヒアリング内容①

資料 1 - ①

【一時保護所の第三者委員】

子供から多く聞かれる意見	<ul style="list-style-type: none">• 意見は、施設での生活に関するものと、ケースワークに関するものに大別される• 施設での生活に関するものは、子供同士のトラブル、職員の態度や一時保護所のルールに関する不満、本・漫画・服・日課・食事に関する希望など• ケースワークに関するものは、親やきょうだいとの面会希望、児童福祉司・児童心理司との面会希望、退所時期や入所予定施設についての不安など
活動の中で困難を感じる点	<ul style="list-style-type: none">• 限られたスペースで多くの子供が生活しているため、施設の構造や定員超過が不満の原因となっていることが多く、子供の意見を聞いても解決することができない• 面談が月1回のため、時間の制約で全員と話ができなかったり、話したいことがたくさんあっても最後まで聞いてあげられないことがある• ケースワークについては、詳細を把握していないため、踏み込んだ相談を受けられない• 一時保護所に対して、面談で聞き取った子供の不満等を報告するが、その後のフォローができず最終的な解決まで見届けられない
意見表明支援が必要だと感じる年齢・場面	<ul style="list-style-type: none">• 一時保護所のルール作りや運営について、子供会議等の意見表明の機会や、意見表明に対する支援があると良い• 日本語が分からない子供には通訳を付ける必要がある• ケースワークについては、第三者委員は詳細を把握していないため、意見表明に関する他の支援が特に必要だと感じている• 小学生以上は自分の意見を十分に述べるができる、幼児でも分かりやすく話をすれば自分の思いを伝えることができるのではないかと
その他	<ul style="list-style-type: none">• 児童福祉司、児童心理司、一時保護所の職員、第三者委員、意見表明等支援員など、それぞれの大人の役割を子供が理解できるように説明していくことが必要• 子供に意見を求める際は、前提となる情報を丁寧に伝えると共に、子供の意見がどのように反映されたか、どのような理由で反映されなかったかを伝えることが大切

第3回専門部会のヒアリング内容②

資料1-②

【カリヨン子ども担当弁護士】

子供から多く聞かれる意見	<ul style="list-style-type: none">• 家がつらいと訴えてもなかなか一時保護してもらえなかった• (一時保護や措置のことなど) 自分のことなのにしっかりと説明してもらえなかった• 大人が必要だと考える支援をしてくれる人はたくさんいるが、子供が求める支援を聞いてくれる人はいない
活動の中で困難を感じる点	<ul style="list-style-type: none">• 子供と伴走し長く支援し続けられることが強みだが、近すぎる関係になると子供が言えないこともでてくる。その場合は、第三者として新しく関わる大人の方が話しやすいこともあるのではないかと• 子供との相性や大人側の能力により、うまく支援できないときもある。組織的にスーパーバイザーが助言する体制を整えたり、子供を支援する他の大人に相談をすることが有効• 気持ちが通じ合えないまま子供が離れていってしまうときは、他にも支援してくれる大人がいること、自分に合う支援者を子供自身が選択できることなどを伝えている
意見表明支援に必要なと感じる資質・専門性	<ul style="list-style-type: none">• 子供が、自分の意見を聞いてもらえた、受け止めてもらえたと感じられることが大切• 子供は保護の客体ではなく権利の主体であり、子供と大人は対等な関係であるということ認識する• 子供を支援する大人同士も連携し、信頼関係の上で役割分担をすることが大切

【子どもの手続代理人】

子供の意見表明と最善の利益の関係	<ul style="list-style-type: none">• 子供の言うとおりにして不幸になったらどうするのかと反論を受けることがあるが、子供の最善の利益は子供の意見表明の先にしかない。子供の意見を受け止めて解決を図ることで、子供も納得し、同じ結論でもより豊かな最善の利益を生み出すことができるのではないかと
意見表明支援に必要なと感じる資質・専門性	<ul style="list-style-type: none">• 子供を説得するような関わり方をすると、子供の信頼は得られない• 子供と信頼関係を築くためには、その時々で子供が発する意見や意向を全部本音として受け止めることが必要。長く関わる中で子供の意見が変わることもあるので、その時々意見に応じて支援することが大切• 子どもの手続代理人は、研修を受講し名簿に登録することで一定の質を確保している
その他	<ul style="list-style-type: none">• 例えば、子供が一方の親を悪く言っても、今後、子供が親との関係を改善する可能性を崩さないよう、支援する大人は親に対して対等に話をするのが大切